

平成27年度 第2回 四国地方整備局事業評価監視委員会 議事録

1. 日 時 : 平成27年10月26日(月) 13:30~15:10

2. 会 場 : 高松サポート合同庁舎 13階会議室

3. 出席者

委 員 : 矢田部委員長、公受委員、岡部委員、高塚委員、中野委員、日向委員  
四国地整 : 局長、次長、次長兼総務部長、企画部長、河川部長、道路部長  
港湾空港部長、用地部長 他

4. 議事内容

- ・委員会の進め方について
- ・再評価審議
  - 1) 重信川総合水系環境整備事業
  - 2) 高知東部自動車道
  - 3) 土器川直轄河川改修事業
  - 4) 肱川直轄河川改修事業
  - 5) 重信川水系直轄砂防事業
  - 6) 一般国道11号 大内白鳥バイパス
  - 7) 一般国道11号 豊中観音寺拡幅

5. 審議結果等

- ・再評価対象事業について審議した結果、以下の結論を得た。
  - 1) 重信川総合水系環境整備事業  
「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。
  - 2) 高知東部自動車道  
「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。
  - 3) 土器川直轄河川改修事業  
「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。
  - 4) 肱川直轄河川改修事業  
「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。
  - 5) 重信川水系直轄砂防事業  
「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。
  - 6) 一般国道11号 大内白鳥バイパス  
「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。
  - 7) 一般国道11号 豊中観音寺拡幅  
「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

6. 委員からの意見・質問、それらに対する回答等（意見・質問：○ゴシック、回答等：→明朝）

・再評価対象事業

1) 重信川総合水系環境整備事業

○ 当初計画からどのような状況変化が生じ、コスト増に至ったのか。

→ 重信川流域は、殆どが地下水の取水により水道が賄われているため、地元住民は地下水への影響に懸念があり、影響がないという確かな情報を要望されているところもある。従って、新たに観測井戸を設けて地下水観測や分析を行うことにより、ご協力頂いているところである。

また、モニタリング期間の延長についても、有識者のご助言も踏まえ3年から5年に延長している。

○ 工期の5年延長について、もう少し説明を頂きたい。

→ 現在の工事は、工事中の周辺環境への影響を確認しつつ丁寧に進めているため、全体として進捗が遅れ気味であり、モニタリング期間の延長と併せて事業期間を5年延長している。

○ 緑のネットワークを構築したというのは、何をもって、どういうネットワークを構築したのか。

→ ここで述べているのは、河口の護岸側にヨシ原を再生し、中州にもヨシ原がある。このような緑がある程度規模を持つことで、鳥類が繁殖するのでネットワークという言葉で述べている。

○ ヨシ原の再生では、過去に10,000m<sup>2</sup>単位で急激に減っているのに対し、再生は1,000m<sup>2</sup>単位であるため、全て戻すということではないと思うが、どこを目標にしているのか。

→ 全て再生するとなれば、莫大な予算と期間が必要になるため、まずは学識者と相談の上、オーダーを決定し、個々に計画したものを実施している。また、オオヨシキリという鳥を指標種として持っており、営巣を確認している。

○ 表現方法をもっと少し分かりやすく、一般の方にも分かるようにして頂きたい。

→ 少し分かりづらい表現、回りくどい表現について修正する。

2) 高知東部自動車道

○ 個別事業では、3便益で見ればB/Cが1を下回っている事業もあるが、この道路の意義は、3便益以外の効果も記載されており、これ以外にも企業誘致の効果など期待されるものが非常に多い。B/Cが1を下回っている事業だけを止めるわけにはいかないし、今回、3事業を一体として審議したことは正しい判断と考える。

○ 橋梁設計の見直しは、例えば徳島県の事業でも出てくると解釈してよいのか。

→ 地域別補正係数が1.4倍という大きな変化は、四国内では高知県と愛媛県の一部であり、今回の高知県ほどの影響はないと考えている。

○ 道路橋示方書の改定に伴う約360億円のコスト増にも関わらず、今の3便益では防災上の便益が全く反映されていないため、一部の区間で1を切るようになってしまっている。3便益以外の効果も出していかなければ、造るべき道路が造れなくなってしまう。参考の試算例では3便益以外の効果として、地震関係では約400億円以上の便益があるため、国はこのような便益の算出手法も併せて考

えていくべき。

### 3) 肱川直轄河川改修事業

- 社会情勢の変化として、店舗進出数や従業員数が急激に増えているが、河川整備の進行に伴い、氾濫圏に人が増え、また整備が必要になることが多い。この地区では、社会情勢の変化の中で浸水エリアへの居住人口はどのような傾向になっているのか。
- 河川整備の進捗率と併せて、浸水エリアの居住人口のデータを整理する。

### 4) 重信川水系直轄砂防事業

- 満砂になった以降の砂防施設の効果について、地域住民への認知度はどうか。
- 整備段階で、首長をはじめ地元住民の方にご説明はしているが、引き続き、特に受益者には周知を努めていく。

### 5) 大内白鳥バイパス

- バイパスは、現道の渋滞緩和に非常に有効だが、一方で沿道沿いの商店街の衰退が懸念される。市町村の都市計画ビジョンに関わっていると、従来の商店街の再興を目指しながら、外側に道路の誘致もしており、沿道沿いの商店街に対してのビジョンを描いている市町村が少なく、結果的にシャッター街になっているというのが見受けられる。道路は、人の動き、交通を動かす。それによって商店を動かしていくので、都市計画を変えていくことになる。是非道路と街の盛衰について、市町村とも連携を深めて議論頂ければと思う。
- 引き続き地域の様々な意見を伺いながら、道路整備を進めていきたい。

以上